

# Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピエンティアエ



Information  
de la Bibliothèque  
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No. 3  
2007.11.1

## 進化し続ける 図書館をめざして

図書館長・図書委員長 大本 泉

図書館と図書委員としての仕事に携わるようになって、2年目になります。

昨年の第1回図書・紀要委員会（現図書委員会）において、図書館リフォーム完成の年でもあり、ソフトの面でも、何か新しい試みをも打ち出していけないものかと話し合いました。それが、12項目の「図書館・紀要に関する改善・改革案（2006年度～2007年度）」です。

初年度は、この図書館報の発行や、全蔵書の見直し・点検等といった仕事の量が、かなり増えることになりました。全委員・館員が助けあって、今のところ、積極的に活動し続けることができております。これも内外の皆様のご協力があったことであり、この場を借りて深謝申し上げます。

残された課題も多々あります。新図

書館誕生後、本学の図書館利用者数は増加しました。今まで以上に地域の方々に利用していただくにはどうしたらいいのか、仙台白百合女子大学図書館らしさをうちだしていくにはどうしたらいいのか等といった問題は、大学や他の部署の協力を得て来年度以降も検討されなければならないでしょう。

「図書館」は、大学の「顔」と言います。与えられた環境・予算の中でも最善をつくし、進化し続ける図書館をめざしています。同委員会メンバーの1部は変わりますが、来年度以降も、研究・教育・学習における創造的営みを賛助・提供し続けていく図書館であってほしいと思います。これからも、皆様のご理解とご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

### ◆ Contents

- 1 進化し続ける図書館をめざして
- 1 図書館新装1周年にあたって
- 2 推薦図書
- 3 利用者の声
- 4 図書館からの情報
- 6 新着図書の紹介
- 7 図書館雑感②
- 8 図書館からのお知らせ
- 8 11月の開館予定
- 8 編集後記

## 図書館新装1周年にあたって

図書館事務長 生出 登

図書館が統合されて図書館棟として独立してから、2007年10月で丸1年が経ちました。新しく生まれ変わった図書館では、設備的に入館ゲート、ブックディテクション（退館ゲート）、自動貸出装置を設置して、新規導入の図書館システムと相まって、情報の検索や貸出のスピードアップ化が実現しました。この1年間、引越しの後始末やデータの訂正に追われ、図書館スタッ

フー同目の回る思いでしたが、7月からは学生さんによるライブラリー・サポーターの手助けもあり、ようやく落ち着きを取り戻してきています。旧1号館の解体待ちになっていましたエレベーターもようやく使えるようになり、館内での行き来が一層スムーズになりました。また、今年度はソフト面での充実を目指して、新しいデータベースを数件導入しました。さらに、カトリッ

ク研究所の蔵書も検索可能となり、全国カトリック大学連盟図書館協議会の加盟館によるカト大横断検索 OPAC と学都仙台 OPAC に加わったことにより、その横断検索もできるようになりました。図書館ホームページも充実させていく予定ですので、これからも積極的にご活用いただければと思います。

## 一路白頭ニ至ル～留岡幸助の生涯～／高瀬善夫 著 岩波書店(岩波新書)

総合福祉学科  
人間福祉専攻 主任  
白川 充

なぜかこの本を推薦したいという思いに駆られました。その思いは後で述べますが、まず、この本を紹介しましょう。明治から大正にかけて、留岡幸助はキリスト教の精神のもとに社会事業に邁進します。その座右の銘が本のタイトルである「一路白頭ニ至ル」です。留岡は、宗教的な動機に基づいて、社会の底辺にあって厳しい生活を余儀なくされている人々を救済する活動を行った代表的な社会事業家です。この本は、留岡の生涯を描

いたものであり、同志社における新島襄との出会い、監獄制度の改善、非行少年の感化事業である北海道家庭学校の創設に至る「一路」を書き綴ったものです。

この本を推薦する理由は、国を思い、社会全体を考え、さらに宗教的な理念に基づいて、その生涯かけて仕事をした社会事業家のスケールの大きさを、若い人たちに知ってもらいたいと思ったからです。読み終えると、きっと北海道家庭学校を訪ねてみたくなるはずです。

## センス・オブ・ワンダー／レイチェル・カーソン 著 上遠恵子 訳 森本二太郎 写真 新潮社

図書館職員  
濱田 富美江

「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」。

自然は私たちに、美しいもの、未知なもの、恵み、たくさんの贈りものを用意してくれます。そして、地球には様々な生命が共存しています。

私たち人間は自然界の一部として存在し、地球の美しさを感じたり、探求したり、環境を守ることも破壊することもあります。

この「センス・オブ・ワンダー」でレイチェル・カーソンは穏やかな説得力で、日常の忙しきで忘れてしまいがちな、自然とふれあう時間の大切さを改めて教えてくれます。

この本を読み終えて、私たちがふだん急ぐあまり全体だけを見て細かいところに気をとめず見落としていた美しさに気づき、感じる事ができたら、そこには新しい発見があるかもしれません。

そして、その感性を大切に、この自然を守るために私たちにできることは何か、身近なところから考えてみて下さい。

レイチェル・カーソンの著作「レイチェル・カーソンの世界へ」「沈黙の春」「失われた森」は環境問題をさらに深く私たちに教えてくれる作品です。

## エブリ リトル シング／大村あつし 著 ゴマブックス

健康栄養学科 2年  
本多 繭羽

私がお薦めするのは『エブリ リトル シング』という本です。この本には6つの物語がありますが、実は全ての話が1つにつながります。そして、それぞれの話がとても大切なことを教えてくれます。授業では知り得ないとても温かいものを、この本は感じさせてくれました。

中でも、特に心に残ったのは『ボクはクスリ指』という話です。この話では、ある少女の指が、全て意志を持っています。そ

の内、クスリ指だけはいつも失敗ばかりして、自分に自信が持てないことで悩んでいるのです。しかし、あることがきっかけで、クスリ指は感じとります。“この世に必要なものなどない。なぜ今自分が存在しているのか、それは、生きてさえいれば必ず、いつか分かる時が来る”と。

さて、クスリ指に一体何が起きたのでしょうか？ それはこの本を読んでからのお楽しみです。

## 図書館のある生活

人間発達学科(3年) 三浦佳織

ある日の1コマ終了後、次の時間が空きコマの私は図書館に向かう。図書館ではまず、1Fにある新聞を2紙(朝日・日経)持ってきて、社説には必ず目を通し、後は社会の流れを押さえる程度読む。その後、まだ時間のある私は2Fに行き、授業のレポート対策のための参考文献を探す。

別なある日、私は3コマで授業を終了とし、図書館へ直行。資格試験を控えているために勉強する。私が今度受ける資格の問題集がたくさん揃っているのも、とても頼りになる。

また別な日、2コマ分の空き時間ができた私は図書館に行く。今回は3FでDVD鑑賞だ。洋画・邦画・アニメな

ど種類も多く充実している。TOEICの勉強の時もここで洋画をよく見て、英語に慣れようとしたものだ。

またまた別な日は2Fでお休みの時間。といったように、私は図書館を活用し、有意義な時間を過ごさせてもらっている。それも優しい図書館スタッフのおかげであると感謝している。

各学科のための参考文献を数多く所蔵し、また、余暇のためのDVDや雑誌もたくさん揃えていて、かつ利用時間も延びた図書館に一度、足を運んでみる価値は充分にある。

## 図書館を利用して

国際教養学科(3年) 高橋沙織

明るく、清潔で広々とした静かで落ち着いた現在の図書館。集中して勉強したいときや調べ物があるときに行くことが多いですが、その他にも少し時間が空いているときに自然と行きたくなる場所になっています。そして新聞を読んだり、また新刊本を手にとってみたり、興味ある英語の雑誌等を見て過ごす時間は、私にとってはとても心地良くて多くの知識をどんどん吸収できるので学ぶことへの向上心がとても高まります。

こうして私は日頃からよく利用していましたが、今年の夏から機会があって、ライブラリーサポーターとして嬉しいことに図書館で働くことになりました。主に書架整理と

館内清掃をやっていて、改めていつも快適な環境作りを維持するためには様々な本の分類法によって整頓され、職員の方々が皆とても親切に対応してくださっているからなのだと感じることができました。さらに私は書架整理をしている中で、今まで私が手に取り読むことのなかったジャンルのコーナーを多く目にし、沢山の本と出会い、後日、借りることが増えました。それは、私自身の視野がより広くなり、それだけ学ぶことも増えたので、自分にとってとてもプラスになったと思っています。なので、私は、これからもどんどん自分を高めるためにも、この図書館をたくさん利用していきたいと思っています。





# 書館導入のデータベースについて

図書館からの情報

昨年10月に新しく生まれ変わった図書館では、新規設備・システムに加え、ソフトウェアの充実を目指して今年度からいろいろなデータベースを導入しました。そのうちのいくつかについて紹介したいと思います。

## 新聞関係

### 朝日新聞 聞蔵II ビジュアル

朝日新聞の1945年から当日の朝刊までが検索可能です。1945年から1984年までは紙面イメージで収録されています。1984年8月～2005年10月まではテキストデータが収録されています。2005年11月からは写真・図表の入った切抜きイメージが収録されており、新聞紙上と同じレイアウトの切抜き記事がカラーで見られます。テキスト

でも切抜きイメージでも好きな形で印刷できます。また、AERA（1988年5月 創刊号～）、週刊朝日（2000年4月～ ニュース面のみ）、知恵蔵最新版も見ることができ、印刷もできます。学内ならどこからでも図書館ホームページ上でアクセスすることができます。

### 河北新報データベースKD(カーデー)

1991年8月1日から前日までの河北新報に掲載された記事を中心にしたデータを検索できるデータベースです。戦後東北6県で実施された選挙情報等、東北6県のきめ細やかな地域ニュースを収録。記事全文テキストに加え、

見出しや写真、イラスト・図など、新聞掲載そのままのイメージデータがPDFファイルで表示され、そのとおり印刷もできます。図書館の検索端末でご利用になれます。

### 日経テレコン21

日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞MJ、日経金融新聞の日経四紙をはじめ、日経プロフィール、日経WHO'S WHO、株価、債券、経済統計など経済・ビジネス分野における不可欠な情報を提供するデータベース。

日本経済新聞は1981年10月以降全文が収録されており、毎日6:00頃更新されるので当日の朝刊が見られます。図書館のホームページから学内でのみ使用できます。

## レファレンス情報関係(いずれも図書館のホームページから利用できます。学内専用です。)

### エンサイクロペディア・ブリタニカ・オンライン・ジャパン

ブリタニカ国際大百科事典(大項目事典、小項目事典)およびブリタニカ国際年鑑をデータベース化した日本語版と、230年以上の歴史をもつ、Encyclopaedia Britannicaのオンラインデータベースの英語版とが利用できます。

特に英語版は、総項目数100,000以上、27,000以上の写真やイラスト、3,300以上のビデオやアニメーション、Webサイトリンク16万件以上と、マルチメディアデータも豊富です。

### BOOKPLUS

昭和元年より現在までに出版された本、絶版書も含んで、約310万件の図書情報を集録しているデータベースです。また、1986年以降の本には、内容・目次情報、小説のあらすじが収録されており、図書の内容を把握できます。“新

着情報”では、最近2週間の新刊情報を閲覧することができ、本の目次・あらすじのほか表紙のカラー画像も満載されています。2000年以降の本には、著者紹介の情報が追加されています。

## MAGAZINEPLUS

一般誌から専門誌、大学紀要、海外誌までを収録した日本最大規模の雑誌・論文情報のデータベースです。国立国会図書館の「雑誌記事索引」を完全収録し、さらに「雑

誌記事索引」ではカバーしきれない年報類・論文集など14,000点・59万論文を追加しています。約30,000誌、962万件（記事数2007年1月現在）を収録しています。

## ジャパンナレッジ

インターネットの情報は書籍に比べて本当にそうかあてにならないものもありますが、出版・新聞各社の信頼性の高い優良コンテンツだけを厳選した正確性・信頼性の高い情報を搭載した知識探索支援サイトです。日本で唯一更新を続けている「日本大百科全書」をはじめ、「imidas」「現代用語の基礎知識」「JK WHO'S WHO」「会社四季報」

や「週刊エコノミスト」等の記事、「東洋文庫」の他、映像記録1908-2006といったマルチメディア・コンテンツなどを搭載しています。最新情報へのアップデートを随時おこなっており、一括検索で関連情報等が一挙に検索できる日本最大の情報量と高い信頼性を誇る「知識・百科空間」webサイトです。

## 医学分野文献情報関係(いずれも図書館のホームページから利用できます。学内専用です。)

### 医学中央雑誌Web版

国内発行の医学関連定期行物約4,700誌より収集した医学文献情報約6,000万件（年間約30万件）をWeb上で検索できるデータベースです。EBM(Evidence-Based

Medicine)に対応した絞込網目（メタアナリシス、ランダム化比較試験、比較臨床試験、比較研究、診療ガイドライン）が利用できます。

### メディカルオンラインライブラリー

日本国内の学会・出版社発行のジャーナルに掲載された医学関連分野の文献をインターネットで検索し、FAX受信やPDFファイルの形態で原文を入手できるサービスです。収録ジャーナル数は約550タイトル（2007年1月

現在）。最新号は、発行後、最短2週間でサービス提供されます。「医学中央雑誌Web版」の検索結果から、こちらのPDF形式で収録されている原文の閲覧も可能です。

## 図書館利用状況

2006年10月2日～2007年9月30日

学科	専攻	入館人数	%	貸出冊数(冊)	%	貸出人数(人)	%	AV閲覧回数(回)	%	AV閲覧人数(人)	%
人間発達学科		3,953	19.1	1,922	22.4	979	21.7	166	20.4	155	21.5
総合福祉学科		4,263	20.7	1,939	22.6	1,021	22.6	115	14.1	102	14.2
	生活福祉専攻	2,039	9.9	994	11.6	548	12.1	78	9.6	69	9.6
	人間福祉専攻	2,224	10.8	945	11.0	473	10.5	37	4.5	33	4.6
健康栄養学科		6,801	32.9	2,541	29.7	1,484	32.9	234	28.7	204	28.3
	管理栄養専攻	5,285	25.6	2,087	24.4	1,179	26.1	149	18.3	129	17.9
	食理学専攻	1,516	7.3	454	5.3	305	6.8	85	10.4	75	10.4
国際教養学科		3,413	16.5	1,069	12.5	590	13.1	288	35.4	254	35.2
専任教職員		1,849	8.9	851	9.9	348	7.7	11	1.4	7	1.0
一般(非常勤等含)		396	1.9	246	2.9	95	2.1	0	0.0	0	0.0
計		20,675		8,568		4,517		814		722	



# 書館から“NEWS”を続々発信!

新着図書を紹介



## 「オウエンとムゼイなかよしのことば」

イサベラ・ハトコフ [ほか] 著  
日本放送出版協会

2004年12月東南アジアを襲った地震で津波がケニアの海岸に押し寄せ、家族を失い海に取り残されてしまった赤ちゃんカバ「オウエン」が救出され、野生動物を保護している自然公園ホーラー・パークでゾウガメ「ムゼイ」に出会い、母親がわりに頼って生きていくうちに、次第に友情が生まれていった。そのニュースに感動した6歳の少女イザベラ・ハトコフが父親に本にしたいから手伝ってほしいと提案し、前作の「オウエンとムゼイ」という写真絵本が出来上がった。その続編にあたる本書では、その後の二人の暮らしが描かれており、今回は新しい仲間ができた様子も描かれている。さらに、今後別のともだちができるか、また展開が楽しみである。前作と合わせて感動を味わってほしい絵本である。



## 「レインツリーの国」

有川浩 著  
新潮社

きっかけは「忘れられない本」そこから始まったメールの交換。あなたを想う。心が揺れる。でも、会うことはできません。ごめんなさい。かたくなに会うのを拒む彼女には、ある理由があった。「図書館戦争」など図書館シリーズでブレイクした、有川浩が贈る青春恋愛小説。図書館シリーズ第2弾の「図書館内乱」の中には「レインツリーの国」という書籍が登場するが、本書はその実物、という仕組みになっている。ちなみに有川浩は、「アリカワ ヒロ」と読み、「図書館戦争」で「本の雑誌」が選ぶ2006年度上半期エンターテインメント第1位を獲得し、今後も活躍が期待されている女性作家である。



## 「大学生のための勉強マニュアル：フクロウ大学へようこそ」

中島祥好, 上田和夫 著  
ナカニシヤ出版

福岡県宇都町(うそまち)にある大鳥大社(おおとりたいしゃ)のクスノキの林に、人間の言葉をしゃべるフクロウが住んでいるという設定で、その中のフクロウ大学の学生生活について話が展開される。第2章の本編では、大学で勉強するための常識として“何を学ぶべきか”“大学で学ぶことの価値”“教養教育の意義”“学ぶ姿勢”“ノートを取る意味”“卒業研究の重要性”などを解説しており、第3章では実践編となっている。巻末には“読書案内”もついていて、楽しみながら読めるような本を紹介している。大学時代に、第2章の部分だけでもいいから、一度は目を通していただきたい本である。



## 「信長は本当に天才だったのか」

工藤健策 著  
草思社

織田信長は政治・軍事の天才とされているが、本当にそうだったのだろうか。桶狭間の戦いから、姉川の戦い、長篠の戦い、本願寺攻め、そして本能寺の変まで、信長の生涯とその天才的といわれる事跡を徹底的に検証する。桶狭間は「奇襲」のできる地理的環境ではなかった、天下取りレースをしていたのは信長だけだったなど、最新の研究と独自の調査をもとに、信長の知られざる実像をあぶりだす。これまでの戦国史の常識を根本からくつがえす画期的信長論。



## 「科学が証明する新朝食のすすめ」

香川靖雄 著  
女子栄養大学出版部

“朝食をとると成績が上がります”“朝食をとると体内リズムがととのいます”“朝食をとると脳が活性化します”“朝食をとるとやる気がアップします”など、成績と行動の改善、国家試験合格率アップ、肥満予防など、内外の最新の医学研究が朝食の効果を実証。どうして朝食と規則正しい生活が必要なのか、そのためにはどうしたらよいかをわかりやすく解説した本。“こどもの元気は朝食から「早寝早起朝ごはん」を応援します。”というキャッチフレーズがついているが、こどものみならず、若者にも是非読んで欲しい本である。



## 「トーベ・ヤンソン短篇集」

トーベ・ヤンソン 著 富原真弓 編・訳  
筑摩書房(ちくま文庫)

トーベ・ヤンソンはフィンランドのヘルシンキに生まれたノルウェー系フィンランド人の画家・小説家である。日本ではアニメの「ムーミン・シリーズ」の作者として知られているが、一般向けの小説も多数書いており、その作品集は日本でも再評価の熱が高まってきている。「ああ、あの作品はここから生まれたのか」と思わず読者を納得させる、こどものこだわりと大人のユーモアやペースがない交ぜになった味わい深い作品群の中から、その特徴を示す際立った作品を選んで一冊に編み、ヤンソンの世界の奥行きと背景を伝えるベストセレクション。

## 図書館利用者教育の必要性

国際教養学科 学科長 芳野 総子

かつて「大部分の学生たちは、図書館というものをどう使うかについての技法を身につけていない。図書館の使い方も知らないで学問をするなどというのは、実のところ、無謀であり、かつ悲惨なことなのだ。」と言った著名な学者がいたが、確かに、大学図書館には、数十万冊、あるいは数百万冊の図書が収蔵されており、それは学問を志す若者たちに利用されることを望んでいるのである。しかしながら、もし利用する人たちがその使い方を知らないというのであれば、まことに残念なことである。

アメリカの大学図書館などでは、新入生を相手にきわめて平易で実用的な図書館利用の手引きを、スライドの解説付きで丁寧に行っているところが少なくない。大学生は図書館の使い方をマスターした上で、それぞれの研究に専心するのが本来の姿であるべきだ、との見解に立っているからである。

日本の図書館学教育は、司書養成という職業教育として存在してきたために、図書館をうまく利用するという利用者教育の側面がほとんど見られなかったが、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアのような国々における図書館利用教育の発展は実に素晴らしいものがあり、今後、日本も学んでいかなければならないであろう。

たとえばイギリスでは、図書館利用教育を大学図書館が主体となって積極的に実施しているらしい。具体的にどのようにしているかという、まず第一の方法は図書館を案内するガイド・ツアーである。これは、初めて図書館にやって来た人たちを5人から10人の単位で、図書館員が館内を案内する方法である。最近、本学においてもそれらしきことを始めている。

このようにして、図書館の建物や図書の配置を知った後に、図書館の詳しい内容に関するオリエンテーションに入る。図書館のサービス、利用手続き、蔵書構成についての説明を、パンフレット、講義、セミナー、ビデオ

などの方法を駆使して行う。

ガイド・ツアー、オリエンテーションの段階を経ると、今度はかなり高度な個別利用指導となる。このレベルになると、専門家がそれぞれ専門の書誌案内をするので、比較的高学年の学生が指導を受けることになる。低学年ではオリエンテーション、高学年では個別利用指導。イギリスでは、これらの仕事をレファレンス・ライブラリアンがしてくれるので、利用者はいつでも書誌相談を受けられるという利点がある。

イギリスにおいては、大学図書館も学部と同様、大学教育に携わる重要な機関であり、利用者教育は大学教育の一部であるという考え方があるので、利用者に対するサービスはほぼ完全に近い。

学生は必要を感じなければ、なかなか図書館を利用しないものである。しかし、一度、彼らが自分にとって役に立つサービスを受けたり、必要とする情報を受け取ったりするならば、おそらく自然に図書館へ足を向けるだろう。

日本の大学においても、教員は図書館を利用させるような授業を行って学生に動機付けを与え、図書館員は学生が図書館に親しみを持つようなサービスを行うというように、相互の協力による本格的な利用者教育を始めなければならないのかもしれない。



## 図書館からのお知らせ

- 9月21日(金)を持ってキャンパス整備工事も終了し、図書館内のエレベータが使えるようになりました。
- 図書館入口右の掲示板に意見箱を設けました。図書の購入希望のほかに、ご要望等ございましたら記入用紙に書いて意見箱にお入れください。
- 図書館では、データベースの充実を目指して、新聞系データベース・レファレンス系データベース・医学系データベースを新たに導入しました。使い方等不明な点がございましたら、図書館スタッフに気軽にお尋ねください。
- 2007年7月よりライブラリー・サポーターとして、学生さんに朝と夜の数時間、図書の配架や館内の清掃をお手伝いいたしております。
- 卒論や実習等で長期貸出を受けたい場合は、自動貸出機では対応できませんので、1Fカウンターに直接申し込んでください。
- 資料は必ず1Fカウンターにお返しください。手続きしないでそのまま書架に戻してしまうとトラブルの素になりますので、お気をつけください。都合により、返却期限に間に合わない場合は図書館までご連絡ください。

### ◆ 11月の開館予定 ◆

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

閉館
  9:00~19:00開館
  9:00~12:00開館

### ◆ 編集後記 ◆

図書館報第3号の冒頭には、「進化し続ける…」といった図書館長のフレーズがありますが、図書館報の印字の色から、やや控えめな色の第1号、より濃い色の第2号、読みやすい鮮明な色の第3号へと、進化の兆しが伺え、また執筆者の教職員や学生達の図書館への思いや大きな期待が読み取れます。図書館利用状況からも、利用者が半年前の2倍以上となり、快適な環境の中で読書する学生の姿は、大学が勉強する場であることをあらためて実感するものです。どうぞ、図書館報もますます進化し続けるよう、ご意見・ご提言など、お寄せください。

(高橋)

図書館新装開館から1年がたち、開館と同時に発行した図書館報も第3号となりました。第3号の図書館からの情報では、新規に導入しましたデータベースについて特集を組みました。今年度からは図書館検索ツアーを行っております。どんどん参加していただけてわからないことがあれば、いつでも図書館スタッフにお聞きください。また、図書館入口の掲示板には意見箱を設けましたので、図書のリクエスト以外にも図書館報や図書館についての意見がございましたら、ご活用ください。

(生出)